

 福岡県立ひびき高等学校
共有・協働による授業改善の取組

北九州市戸畑区にある単位制・三部制の高等学校です。生徒は自分の希望進路実現に必要な科目や興味・関心のある科目などを選択し、取得した科目の単位を積み重ねて卒業資格を得ています。将来にわたって学ぶ意欲を身に付け、社会に貢献することができる生徒を育成するため、学習の意義だけでなく、「何ができるようになるか」を明確にした授業実践を目指しています。

1 推進体制と環境整備

(1) 研修部による校内研修等の工夫

教員が授業改善に向けた共通認識をもち、授業で実践する雰囲気がつくられるよう、研修部や教務部が取組を進めています。

研修部は、教員一人一人が授業改善に取り組むことができるよう、実践的な内容を取り入れた研修会を実施しています。

昨年度は「授業改善研修会」を2回行い、1回目ではワールド・カフェ方式で、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善について、具体的なアイデアを出し合いました。2回目では、各教科・科目等

における授業改善の工夫を示し、相互にそのアイデアが共有できるよう、「hibiki レシピ」を作成しました。今年度の「授業改善研修会」については、夏季休業中などを利用して、1回目、2回目とも終日の研修としました。1回目では「県立学校新たな学びプロジェクト」のアドバイザーである、北九州市立大学教授の見館好隆先生に講義を行っていた

後、「まなボード」を用いて、教科特有の「見方・考え方」や「主体的・対話的で深い学び」を実現した生徒の具体的な姿について協議しました。2回目では、九州大学教授の鏑木政彦先生の講義や、教員全員が来年度の授業で活用するルーブリックを作成する研修を予定しています。

相互授業参観では、全教員が授業内容や手立て、メッセージを記した一覧表(写真1)を作成し、授業改善の具体的な内容・方法等を共有しながら参観できるようにしています。また、授業アンケート(写真2)の評価項目についても改善を図り、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善が実現できているかについて、生徒の視点から教員が確認できるようにしました。

日時	授業内容・メッセージ	日時	授業内容・メッセージ	
月曜日 5, 6限	授業前半では、対話型鑑賞をICT機器を用いながら行います。観察→解釈・根拠を持った考察→意見の検討→複数の可能性を追求するという流れで、歴史的価値とは違った視点で作品を楽しんでいきます。後半は『自分の住みたい家』というテーマで建築模型を制作します。ご指導よろしくお願ひします。	5月15日(水)5, 6限	明治維新期の日本が抱えていた問題、課題ともに、生徒と望ましい政策を考察するグループワークを行う予定です。初めての取組のため、主題設定や生徒との対話等が適切であるかどうかも含め、お気づきの点がありましたら教えてください。	
講座名		美術Ⅲ	講座名	日本史B [応用]
単元名		鑑賞 建築	単元名	明治維新と新政府の設立
担当者名			担当者名	
実施教室	501美術教室	実施教室	418講義室	

写真1 相互授業参観一覧表(部分)

2 この授業について、あなたの評価に最も近いところに○をつけてください。				
(1) 先生はこの授業の目標や評価方法を明確に説明している。	4	3	2	1
(2) 先生の説明や黒板の書き方、ICT機器などの提示方法は分かりやすい。	4	3	2	1
(3) 先生は適切に生徒への指導を行い、規律ある授業を行っている。	4	3	2	1
(4) 授業中の先生の言動から、先生が伝えようとする熱意を感じる。	4	3	2	1
(5) 先生は生徒を見て、理解しているかを把握して授業を行っている。	4	3	2	1
(6) 先生は生徒と十分にコミュニケーションがとれている。	4	3	2	1
(7) 先生は生徒が自ら考え、考えをまとめる時間を十分に取っている。	4	3	2	1
(8) 先生は生徒が考えを述べたり、発言したりする機会を取っている。	4	3	2	1
(9) 生徒同士で意見交流をする時間が設けられている。	4	3	2	1
(10) この授業に満足している。	4	3	2	1

写真2 授業アンケート(部分)

(2) 研修部と連携した教務部の取組

教務部は研修部が推進している授業改善の取組を踏まえ、今年度より年間指導計画について、生徒に身に付けさせたい力や見方・考え方、単元ごとの手立てを、授業担当者が月ごとに記載するよう全面的に変更しました。校内研修等で培った、授業改善に係る知識や技能をどのように活用していくのか、教員が見通しを持って指導にあたるような仕組みを構築しました。また、昨年度末には、「何ができるようになるか」を明確にした授業実践に資するよう、各教科の枠を取り払い、授業担当者が創意工夫を凝らして講座を設定し、生徒が自分の興味・関心のあるものを選び自由に参加する「学びの良さが実感できる2日間」という特別授業日を設定しました。

(3) ICT 機器の充実

プロジェクタ、スクリーン、パソコンを設置した教室を増やし、書画カメラや移動式プロジェクタも増設し、教員が ICT を使って授業を行える環境を年々整備しています。それに伴い、教員が資料を提示して授業内容の説明をしたり、生徒が学習内容について調べたことを発表したりするなど、多くの授業で活用されています。

2 授業等での具体的な取組

日本史Bの授業では、「中世の人々の感覚を知ろう!」というテーマで、夢について書かれた古典の文章を読み取り、中世の人々と現在の人々との考え方の違いについてグループで意見を交流しました。古典の文章は読解が難しいため、読解が苦手な生徒が文章の意図を把握できるよう、現代語訳も合わせてプリントに示しています。生徒たちは教員の支援を受けながら、粘り強く読解に取り組み、読み取った内容を自分なりに解釈し、グループ内で発表して意見を交換しました。意見交換をすることで、他の生徒の解釈の深さに触れて驚いたり、他の生徒の意見を基に自分の意見を見直したりする姿が見られました。



写真3 現代社会の授業の様子

また、現代社会の授業では、環境問題をテーマにしたジグソー活動が行われていました(写真

3)。「地球温暖化」「森林減少」など自分たちが興味・関心を持ったテーマごとにエキスパート班が編成されています。担当教員が用意した資料や自分で調べた内容を基に、一人一人がワークシートに、テーマについて分かったことや自分の意見をしっかり書き込み、グループの中で積極的に発表する姿が見られました。

生物の授業では遺伝的浮動による遺伝子頻度の変化を理解するために、基石を使って実験を行いました。教師の説明の後、実験の手順をまとめたプリントをペアで確認し、実験を進めていきます。手順や記録の仕方など、わからないところをペアで教え合いながら自分たちで実験を進めて結果をまとめ、予想通りになるか確かめていきます。「集団内の遺伝子頻度が遺伝的浮動によってどのように変化するかを考えてみよう」というねらいに沿った実験を行うことができました。

3 取組の成果

校内研修の推進の結果、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善の取組に対する意識は確実に高まっています。様々な状況の生徒に合わせた授業を行うため、教員は教材研究に熱心に取り組んでいます。また、授業アンケートを改善したことで、生徒と教員の授業改善の方向性の共有が進んでいます。教員は自身の授業方法に対する課題を把握して授業改善を進めることができ、生徒は自身の学び方について考えるきっかけとなっています。

4 今後の方向性

これまで行ってきた授業改善のための取組を継続していくと同時に、生徒の多様な資質・能力を生徒の将来に生かすための評価の工夫を進めることが今後の課題となります。